

新任研修を行いました

令和7年10月25日(土)、上田短大附属幼稚園及び上田短期大学を会場としてお借りし、新任の先生方を対象とした研修を実施しました。運動会や発表会などで忙しい月にも関わらず、27名の先生方にご参加いただきました。当日は県研修委員会四役の先生をはじめ東信地区の研修委員の先生方が中心となり運営いただき4講座を行いました。当日の様子や参加された先生方の感想をまとめてみましたので、参考にしてください。

第1講座「『やまんばの森』を歩こう～幼児期にとって大切な原体験とは～」

…上田短大附属幼稚園 園長 新增 由香先生に講師をお務めいただき、幼稚園の裏山(通称「やまんばの森」)をグループで散策し、子どもの視点で自然の中にある五感をくすぐる事象を探して「森の五感マップ」を作成しました。また作成したマップ情報を他のグループの人と交換し合いました。



(班で裏山の自然を探究)



(帰ってきて班で確認)



(他の班の人と情報交換)

- 実際に上田短期大学の裏山を歩いてみて、教員(保育者)の視点だけではなく、子どもであつたらどんなことに注目するだろうかを考え、どんな自然物に興味を持って遊びに活かすか、また自分であつたらどう展開していくかを活動を通して考えることができた。
- 子どもたちと自然に触れて、こういった知識を保育者が知っていることで、子どもたちにも豆知識を伝えることができ、子どもたちの植物などに対する興味・関心に繋がり、自然を身近に感じるきっかけにもなると感じた。そのため、今からでも様々な知識を頭の中に入れておき、お散歩や行事や普段の生活の中で出会った時には、子どもたちに少しでも伝えられるようにしておきたいと感じた。

第2講座「秋の自然と遊ぼう」

…第2講座は、やまぼうし自然学校 加賀美 貴代先生に講師をお務めいただきました。身近な自然を制作活動に生かすことをテーマにし実技研修を行いました。まつぼっくりに水をつけると縮むという性質を用いて、グループで拾った落ち葉や花、草などをまつぼっくりにさして、花かごづくりをしました。また秋の色探しをし、集めた葉などを使って、模造紙に色のグラデーションを作ったりし、自然を生かした遊びを体験しました。



- 松ぼっくりが花籠になるという素敵な体験ができ楽しかったです。足元の小さな花や色に注目し、久しぶりに感覚が刺激を受けた気がしました。グラデーションを作る体験を子どもたちもやりたいと思いました。
- 講座1で学んだ子供の目線に立つと言うことを活かしながらグループで自然物を集めることができ、難しく考えすぎずに純粋な気持ちで楽しむことも大切だと感じた。保育者が楽しみながら行うことで子どもたちも楽しんで行えることに繋がると学んだ。

第3講座「日頃の保育について語り合おう」



…俊英幼稚園の青木洋子先生、須坂双葉幼稚園の垂澤優樹先生に講師をお務めいただきました。参加者を6グループに分け、テーマ「自身の良さ・魅力の再発見」「自身が抱える課題」「これからの意欲につなげよう」について、グラフィックファシリテーションという手法を活用し、日頃の保育について振り返りながら今後の保育について期待を持ち合いました。受講者からは、「自分の日々の保育を見直しつつ、悩みや頑張っていることを共有することで、気持ちが楽になりました。」など、自己の保育や考え方を見つめ直し、保育への意欲を高める機会となりました。

- 新任者の先生方と日々の保育を振り返る中で、自分自身の悩みを話し合いを通して新たな視点を持って見ることができ、こうしてみたら良いのではないかなど、有益なアドバイスをいただくことができた。ひとつの悩みも自分の事だけとして捉えるのではなく、子どもを主軸に捉え考えていきたい。
- 日々の保育を同期の先生たちと話し合ったことで同じ悩みを抱えている先生がいたり、小さな工夫をして日々の保育を作り上げている先生もいたりして保育の大変さを改めて感じることができた。また、子どもや保育者の偉大さを感じる講座でもあった。私は同年の同期がいないため心細い時もあるが、分からなかったら”子どもが1番近い存在だから頼るのもあり”と言うことを知れたので今後の保育では頼れる場面では子どもに頼りながらよりよい保育にしていきたい。
- 今回のグループワークで出された意見を自身の今後の保育に取り入れていき、子どもたちの様子に合わせて、更なる保育を展開していきたいと思えます。

第4講座「保護者対応について学ぼう」



…(一社)長野県私立幼稚園・認定こども園協会理事長 西片紀美子先生に講師をお務めいただきました。西片先生からは、保護者との信頼関係を築く上でコミュニケーション力を高めることが重要であることやその高め方、苦情があった時の対応の仕方、報告・連絡・相談の重要性など、保護者対応で大切にしなければならない事についてお話いただきました。また、園で作成した「保育ドキュメンテーション」を紹介いただき、保護者の信頼を得る上で、保育を可視化・言語化し情報提供することが重要であることについてお話いただきました。

○私の園では、帰りの時など玄関で保護者の方と毎日話す機会があり、その日の怪我や気になったことは保護者の方と直接共有をしている。しかし、まだまだ保護者の方との信頼関係は薄いため、保護者の方は何に悩んでいるのか、不安であるのかを一緒に考えることも大切であると学んだ。また、その日その子にこういうことがあったんです！こういう遊びをしていたんです！など、ちょっとしたエピソードを共有することも信頼関係に繋がると学んだので、早速実践していきたいと感じた。また、笑顔で話すことや明るい雰囲気も印象として大切であるため、目線や言葉遣い、雰囲気も大切にしながら保護者の方と関わってきたい。

今回会場としてお借りした、上田短大附属幼稚園の先生方は、裏山の自然を保育に活かす上で、「子ども達の声」を大切に、環境構成を工夫しているとの事です。また、裏山の自然をどう園庭につなげ生かしていくかについて、様々な考えを出し合い、園庭改造に取り組んでいるそうです。右の写真は、裏山で伐採したサクラの木を使って炉端を作ったものです。この中央で火をたくとのことです。子ども達が火の回りで楽しむ姿が思い浮かびますね。

(専門員)

